



ザンビアの経済概況・月報(2015年5月)

主なマクロ経済指標	2014年	2015年
1. 人口(百万人)	15.0 (proj)	15.5(proj)
2. 人口増加率(%)	2.88 (est)	3.3(est)
3. 失業率(%)	7.8(2012)	7.8(2012)
4. 平均寿命(年齢)	49.2(男性)/53.4(女性)	49.2(男性)/53.4(女性)
5. 実質GDP(百万米ドル)	-	-
6. 名目GDP(百万米ドル)	26,758 (est)	28,567(proj)
7. GDP成長率(%)	6.0	5.5(proj)
8. 一人当たりGNI(米ドル)	1,358*1 (2012)	1,358(2012)*1
9. インフレ率(%)	7.9	6.9(May)
10. 消費者物価指数(2009年=100)	141.51	150.62(May)
11. 貿易収支(百万米ドル)	145.19	-97.05(Apr)*2
12. 対日貿易収支(百万米ドル)	-64.65*4	-3.37 (Apr)*3
13. 輸出(総額, 百万米ドル)*5	9,696.20	519.30(Apr)*2
14. 対日輸出(百万米ドル)	36.84*4	2.01(Apr)*3
15. 輸入(総額, 百万米ドル)*5	9,551.01	616.35(Apr)*2
16. 対日輸入(百万米ドル)	101.49*4	5.38(Apr)*3
17. 経常収支(百万米ドル)	-1,250 (2013年)	-
18. 対外直接投資(百万米ドル)	181 (2013年)	-
19. 対内直接投資(百万米ドル)	1,811 (2013年)	-
20. 金・外貨準備高(百万米ドル)	3,040 (2014年9月末)	3,040 (2014年9月末)
21. 対外債務残高(百万米ドル)	4,700 (2014年12月末)	4,700 (2014年12月末)
22. 為替レート(対米ドル)	6.15ZMW*5	7.26ZMW(May)*4
23. 主要政策金利(現行, 年利%)	11.56	12.50 (Jan)

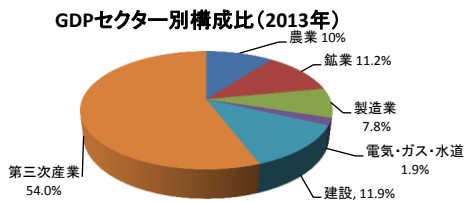
※()内の年月は、その年あるいは月の確定値/予測値。 ※小数点第3位以下四捨五入

*1	購買力平価(PPP)による一人当たりGNI
*2	1USD=7.39ZMW(2015年4月のザンビア中央銀行為替相場)を用いて換算
*3	1USD=119円(2015年4月の日銀基準外国為替相場)を用いて換算
*4	<2014年2月>
*5	主要輸出品目: 銅/硫酸/発電硫酸/電力/綿花 主要貿易相手国(輸出): スイス 34.1%, 中国 22.7%, シンガポール 11.1%, 南アフリカ 8.7%, コンゴ(民) 7.2%, その他 16.1% 主要輸入品目: 肥料/窓架/発電装置/軽油/プレハブ建築/鉄鋼製の塔/ラチスマスト 主要貿易相手国(輸入): 南アフリカ 38.2%, コンゴ(民) 9.1%, ケニア 9.1%, 中国 8.3%, インド 5.5%, その他 29.7%
*6	1USD=106円(2014年(平均値)の日銀基準外国為替相場)を用いて換算
*7	2013年1月1日から通貨クワチャのデノミネーションが実施され、1,000 ZMK(旧通貨) = 1 ZMW(新通貨)へと通貨単位が変更となった。

<ザンビアの税制度 ~鉱業関連~>

(出典: ザンビア歳入庁, ザンビア採掘産業透明性イニシアティブ(ZEITI))

- 法人税(Corporate/Company Tax):** 35%。
ルサカ証券取引所に上場している企業は30%。
 - 付加価値税(VAT):** 16%。
 - 採掘権料(Mineral Royalty)(見直し中):**
坑内掘りに8%、露天掘りに20%。
 - 関税及び消費税(Customs & Excise Duty):**
関税は商品(コモディティ)毎により、0 - 25%と異なる。鉱業の資本設備に関しては免税(ゼロ関税)。鉱石のまま輸出する場合には15%課税される。
 - 源泉徴収税(Withholding Tax):** 15%。
- ※鉱業権を有する者は、採掘や鉱業関連の活動に必要なとされる全ての機材に係る関税、消費税及びVATを免除される。



主要な経済ニュース(5月)

1. "債務報告書, 慎重な政策を求める"(Times, 7日)

最新版である2014年ザンビア債務安定性分析報告書は、ザンビアの財政への信頼性を高めるべく、政策及び公的機関のさらなる改善を求めた。同報告書では、債務負担能力を向上すべく、借入資金を経済成長に資するセクターに用いることを推奨した。

2. "ザンビア政府, 鉱業の成長予測を見直し"(Daily Mail, 7日)

6日、キトウェで開催されたマイニング・エキスポにて、ヤルマ鉱山エネルギー水開発大臣は、コンゴ民主共和国における昨今の銅産出の成長水準から見られるように、鉱業はきわめて競争的であるため、同セクターの見直しを5~10年ごとに実施する必要がある旨発言した。

3. "外国企業, 鉱業に7100万米ドルを投入"(Daily Mail, 12日)

オーストラリアを拠点とする企業Intrepid Mines Limitedは、今年、ムンブワのキトゥンバ銅鉱山(注: 地下掘り鉱山)に、7000万米ドル超を投入することが期待されている。ムレンガ・ザンビア採掘企業協会(AZEC)会長は、同社が、昨年のBlackthorn Resources社との合併を受け、7100万米ドルを投入することを提示し、それらの投入金はフィージビリティ・スタディー及び地下資源の採掘に拠出予定である旨発言した。右銅鉱山の寿命は推定11年であり、かつ、年間5万8000トンの銅が産出されると予測されている。

4. "燃料価格, 値上げ"(Times, 13日)

エネルギー規制委員会(ERB)は、クワチャの下落を受け、各種燃料価格を平均1クワチャ値上げした。同値上げは12日深夜から実施され、ガソリンは1リットルあたり1.14クワチャ増の8.74クワチャ、ディーゼル原油は1リットルあたり1.00クワチャ増の7.59クワチャに値上げ(注: 灯油は0.71クワチャ増の5.40クワチャに値上げ)された。

5. "メイズの収穫量, 減少の見通し"(Times, 15日)

ザンビア政府は、2014/2015年のメイズの収穫量は、前年度比21.86%減の261万8221トンに減少すると予測しており、前年度より減少する見込みである一方、ザンビアにおける2015/2016年期の食糧需給バランスにおいて、食用及び工業用のメイズの備蓄は十分にあると示されている。

6. "外国企業3社, ザンビアを注視"(Daily Mail, 20日)

南アフリカ及び米国を拠点とする鉱山会社3社は、キトウェで開催されたコッパーベルト・マイニングエキスポに参加した後、ザンビア国内における拠点の設立に関心を示している旨明らかにした。その3社は、Flanders社(米国を拠点とする企業)及びSouth African Jet Demolition Private Limited(管理爆発物及び操作に特化した企業)及びSaacosh社(安全にかかる戦略やイノベーションの南アのトップ企業)である。

7. "再生可能エネルギーへの投資を"(Daily Mail, 20日)

ズル鉱山エネルギー水開発副大臣は、ザンビアが直面している電力不足を軽減すべく、再生可能エネルギーへのさらなる投資を求めた。同副大臣は、ザンビア政府が再生可能エネルギーの促進を望む理由として、予測不可能な降雨パターンがカリバノースバンクの水位低下に影響を与えていることを挙げた。

8. "専門家「ザンビア経済は好調」"(Daily Mail, 27日)

2015年アフリカ経済見直し報告書(注: アフリカ開発銀行(AfDB)、及びOECDならびにUNDPの共同報告書)において、銅産出の減退によって、2014年のGDP成長率が前年比1.0%減の5.7%となるものの、2015/2016年には成長率6%以上となる見通しであることを指摘した上で、ザンビア経済は引き続き好調であると述べた。

9. "IMF, ザンビア政府に助言"(Times, 27日)

IMFは、債務ショックを軽減すべく、インフラ整備の財源確保に対処し、プロジェクト選定手法を強化し、設備投資を優先するよう、ザンビア政府に助言した。また、IMFは、公的債務の脆弱性に対応すべく、効果的な債務管理戦略を策定するよう、ザンビア政府に要請した。右要請は、2015年のザンビアに対する4条協議の完了を受けて、IMF執行理事会が発表したステートメント内で言及された。

10. "インフレ率, 6.9%に低下"(Times, 29日)

ザンビア中央統計局(GSO)は、5月のインフレ率が前月比0.3%減の6.9%に低下した旨発表した。この1年間で月平均のインフレ率が7%を切ったのは初めてであり、この低下は主に、自動車や航空運賃の価格低下に起因するものである。